

平成廿六年九月廿二日

ヒマラヤの國ネパールなれど、ポカラは標高僅(わづ)か八百米にて亞熱帶氣候なり。冷房完備の食堂にて夕餉。昨日のカトマンドウにてはベジタリアン、ノンベジタリアン分れて夕食を攝る。されど、本夕はベジ、ノンベジ混合のビュッフェ形式なれば、參加者全員にて初めて一つのテーブルを圍めり。良き機會として自己紹介行ふ。半數は馴染の顔觸れ乍ら自己紹介にて初めて知る事も有り。以前より見知りたる女性、ネパールは七度目との事。本格派の山ガールとは思ひも寄らざりき。心強し。明日は五時起床なれば早々に自室へと下れり。

翌朝、直線距離にして約七十軒のジヨムソンへと向かふ。當初は四輪駆動のジープにて約十時間の山道移動を豫定の處、道路事情好ましからざるとの事にて飛行機へと變更す。僅か十五分の飛行なり。されど天候に因り飛行不能の日も多々有と云ふ。六時十五分ホテル出發、約十五分にて飛行場に到着し七時發の飛行機を待つ。ポカラは晴天なれど、ジヨムソン及び途中の山嶽部分は天候不良とて待機す。午後の氣象は飛行に馴染まず、午前中に飛ばざる場合は本日の飛行無しとの事なり。乗客の體重測定に各々荷物凡て持ちたる儘體重計に乗り。人間と荷物を別に測定するに非ず。十時頃漸く天候恢復、先づはN師等數名先行す。十人乗りの小型機なれば一度に全員の搭乗能はず。機の戻り來るを待ちて、約半時間後、愈々余等飛立てり。僅かの滑走にて離陸す。全席窓際なり。雲多くヒマラヤ見ゆるも一瞬のみなり。ジヨムソン到着直前に機は突如左に急旋回す。少くとも四十五度は傾けり。ジェットコースターの如き氣分なり。

機は無事著陸、乗客より拍手起れり。約半世紀前初めて飛行機に乗りし頃、著陸の度毎に拍手起りしを思ひ出せり。機を降りて當地の飛行場を見るに、短き滑走路の一方の先端は崖にて突然途切れ地面無くなれり。他方の端は山に直面す。、先程の急旋回、此の山が理由なり。添乗員O氏曰く、「來年のムスタンツアー參加豫定者には急旋回の事云ふべからず。」

ポカラより標高二千七百米のジヨムソンへと一舉に千九百米登れり。ネパール人のガイド曰く、高地に慣るる爲に散歩をせん。三十分程度かと思ひきに、三時間とのこと。余の常識にては散歩とは云はず、立派なトレッキングなり。日本の常識は通用せぬなり。